

第 4 回市民会議のテーマは

「誰もが活躍する社会づくり」となります。

私たちが考える“誰もが活躍する社会づくり”とは

少子高齢化が進行する中、また、「人生 100 年時代」といわれる中で、本市が今後も発展し、活気ある地域をつくるためには、年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わらず、誰もが生涯にわたって活躍できる地域社会を形成していくことが大切であると考えます。

本資料は、「誰もが活躍する社会づくり」について、若手職員で構成の「まちづくり戦略部会」で議論し、まとめたものを中心に次のとおり整理しました。

- ① 私たちが思い描く“理想像”
- ② 誰もが活躍する社会づくりを取り巻く“現況と課題”
- ③ 誰もが活躍する社会づくりに関する“本市の主な取組み”
- ④ 誰もが活躍する社会づくりに向けた“今後の方針と具体的方策”

※当日は、主に①、②、④を中心にご発言いただければ幸いです。

①私たちが思い描く“理想像”

- ▶ 年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わらず、活躍したい人が活躍ができ、一人ひとりが活躍したくなる社会が実現している。

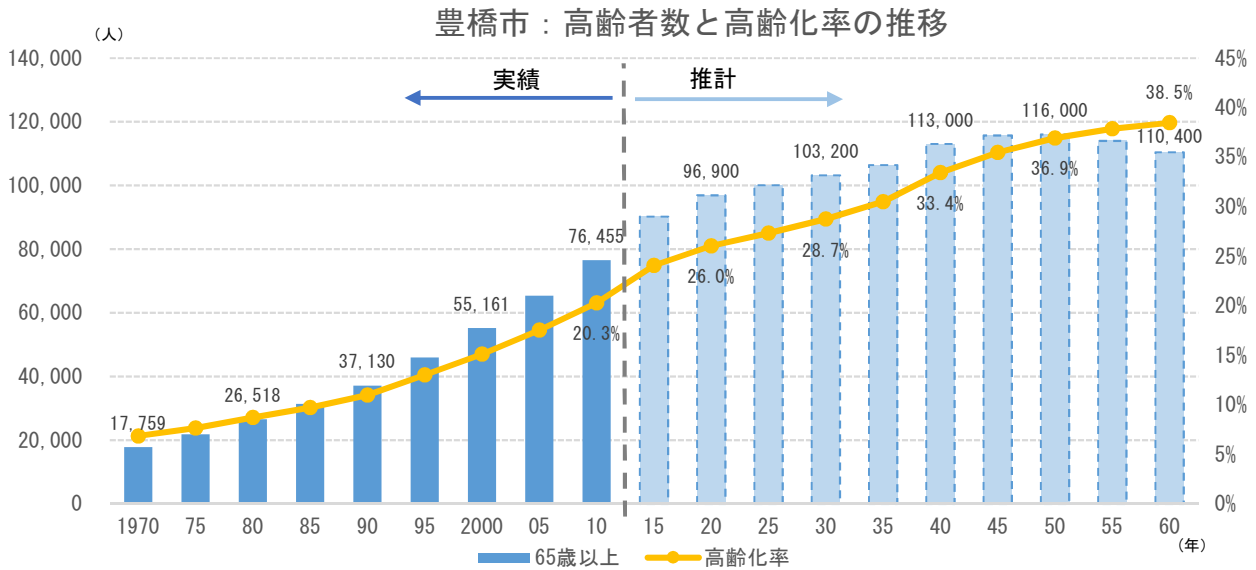
① 今回のテーマに関してあなたが考える理想像は？

②誰もが活躍する社会づくりを取り巻く“現況と課題”

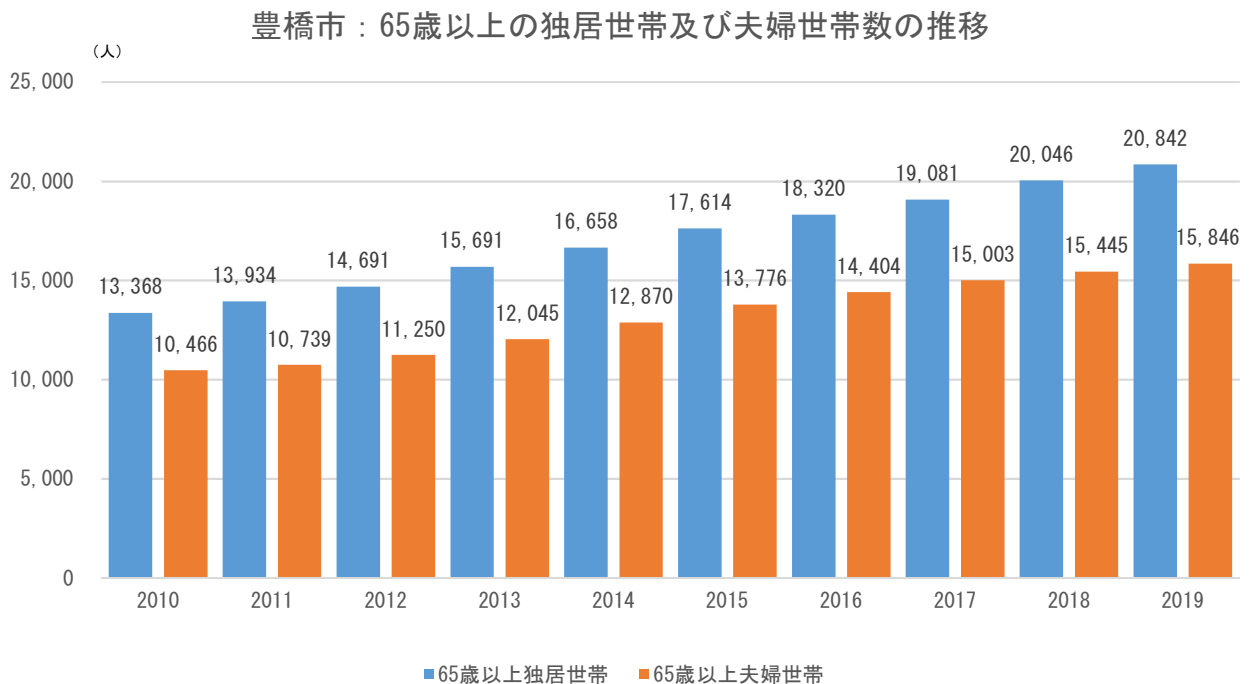
➤ 高齢化が進んでいます。

○高齢化は今後も進行し、2030年には高齢者数は10万人を超え、高齢化率は約3割に迫ると推計されています。

○65歳以上の独居世帯と65歳以上の夫婦世帯がともに増えており、10年前と比べてともに約1.5倍となっています。今後も増加することが見込まれる中、孤立化を防ぐとともに、安心して暮らすための健康づくりや支援が必要となります。



出典：豊橋市統計書及び豊橋人口ビジョンから作成（推計値は低位推移前提）



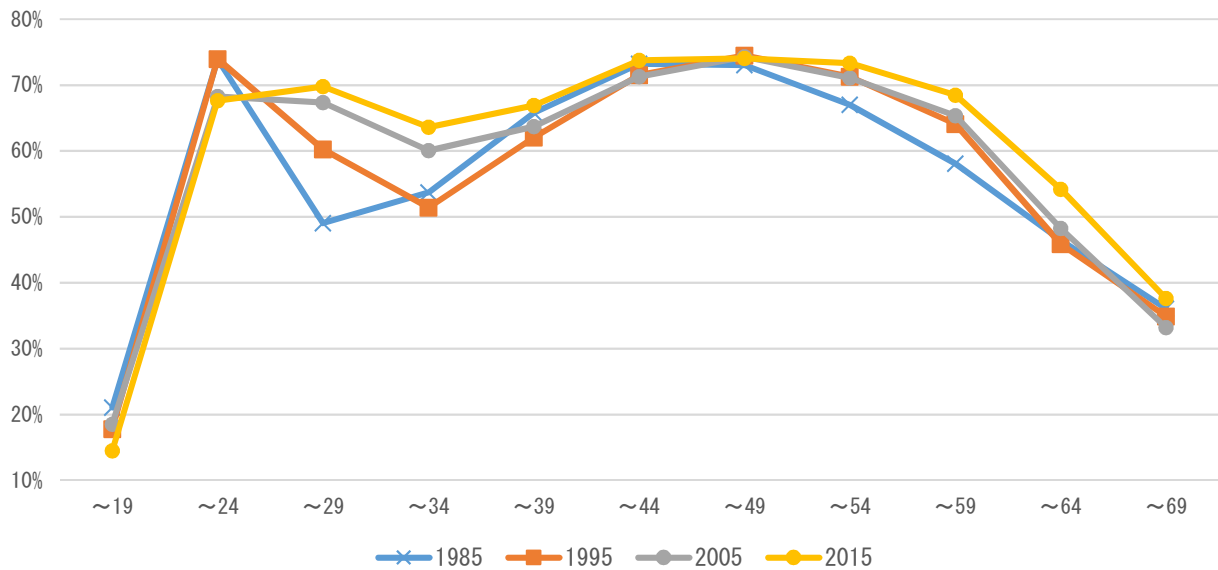
出典：豊橋市（各年4月1日現在）

➤ 働く女性が増えています。

○女性の就業率は上昇しており、中でも25～34歳が顕著です。

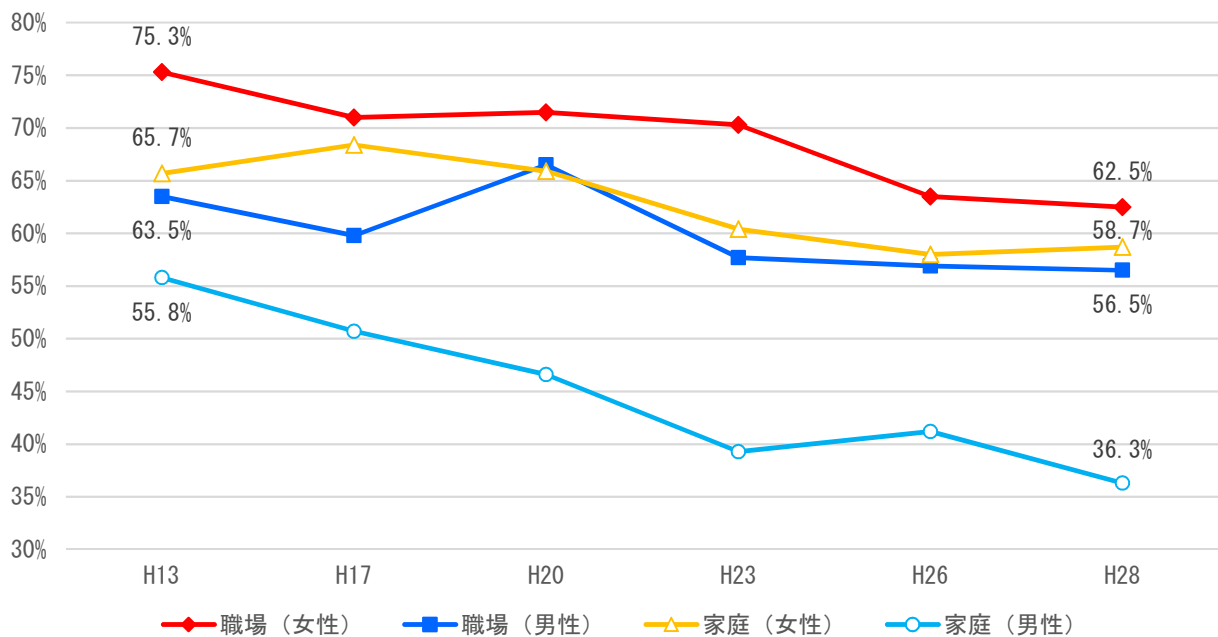
○職場や家庭において男性の方が優遇されていると答えた割合は男女ともに減少傾向にありますが、依然として高く、その割合は男女間でもギャップがある中、家庭と仕事の両立について男女ともに考えていく必要があります。

豊橋市：女性の就業率の推移（年齢別）



出典：国勢調査

豊橋市：職場や家庭において男性の方が優遇されていると答えた割合（男女別）



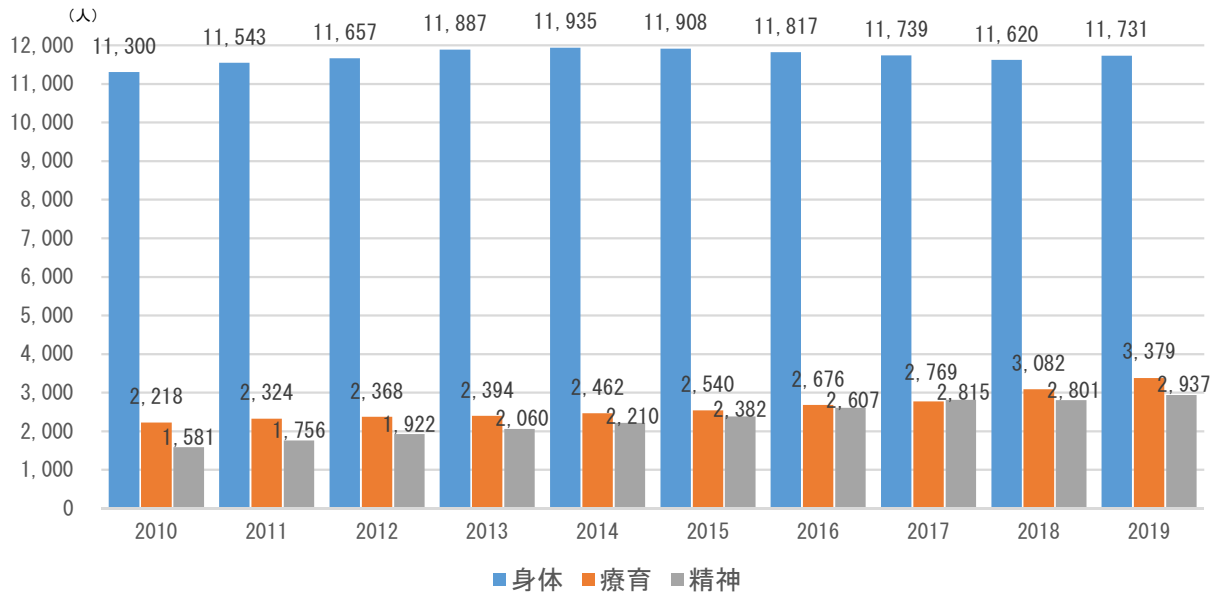
出典：男女共同参画に関する市民意識調査

➤ 障害者手帳の所持者が増えています。

○身体障害者手帳の所持者数は11,000～12,000人でほぼ横ばいですが、療育手帳と精神障害者手帳の所持者数はともに増加しています。

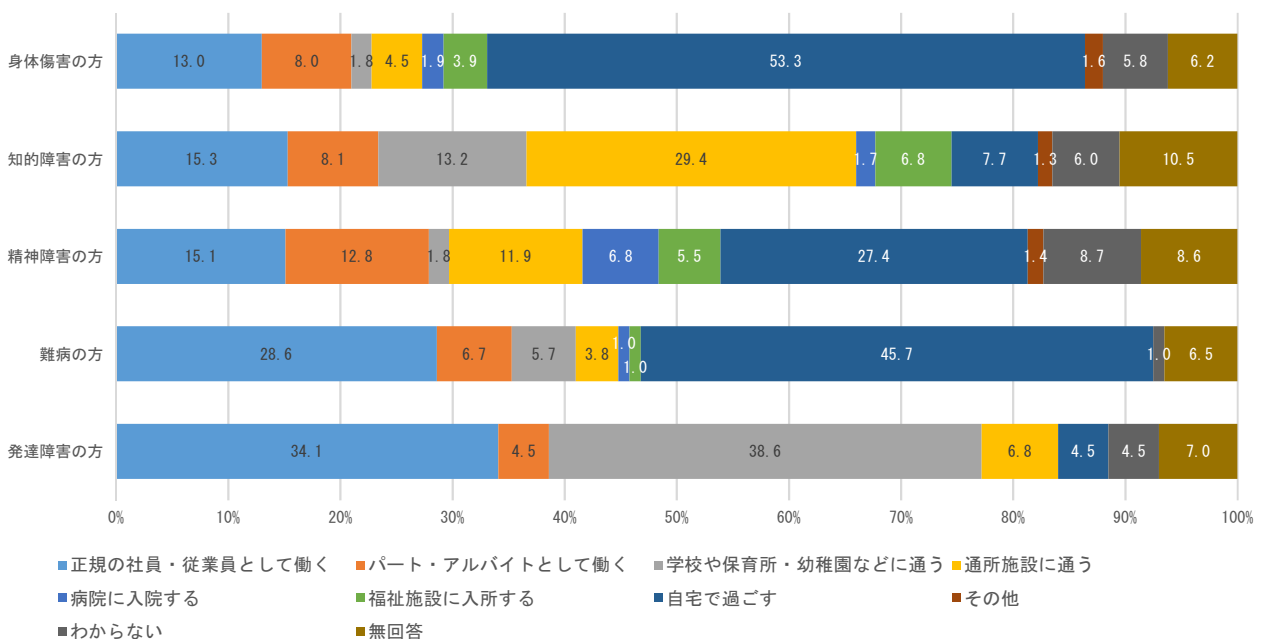
○今後の過ごし方として「働くことを希望している」方は2～4割程度存在し、その中には正規の社員・従業員として働きたい方も多く、受け皿の確保と環境整備が求められています。

豊橋市：障害者手帳所持者数の推移



出典：豊橋市（各年3月31日現在）

豊橋市：今後希望する過ごし方



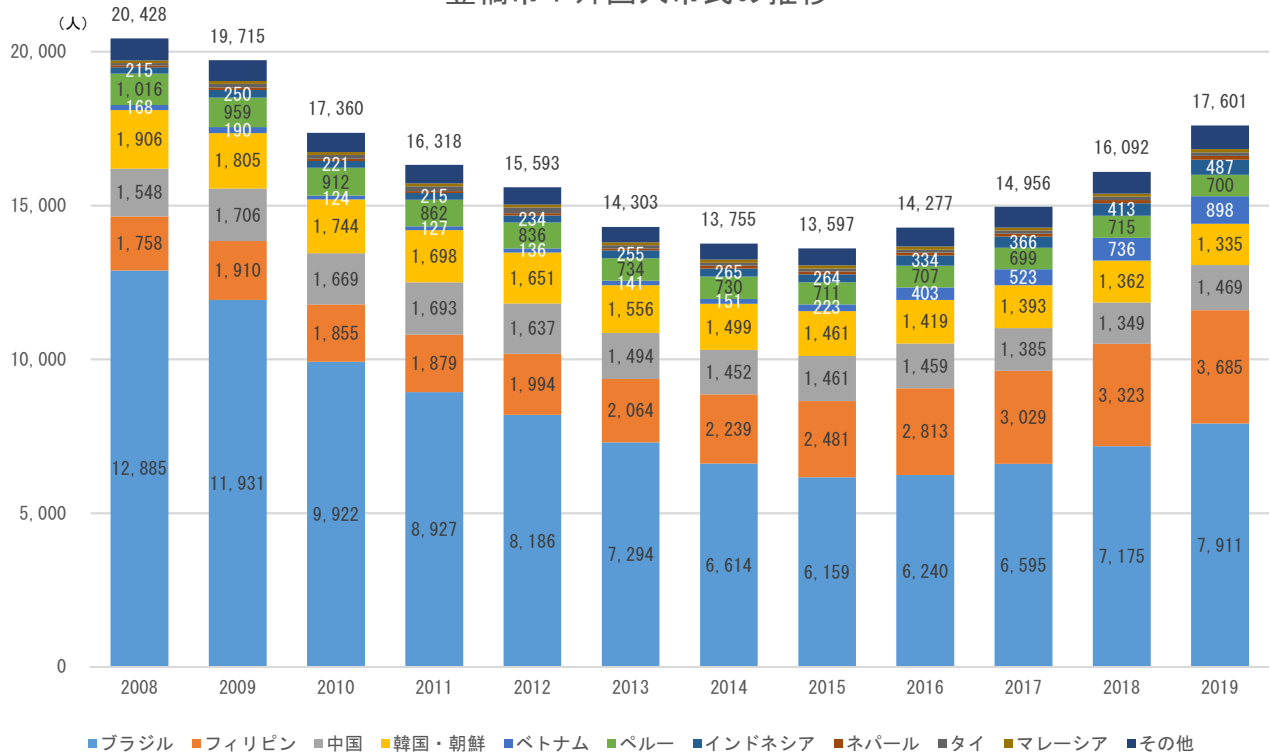
出典：障害のある方を対象とした実態把握のためのアンケート調査（H29）

➤ 外国人市民が増えています。

○リーマンショック以降減少していた外国人市民は 2015 年に下げ止まり、以降は毎年千人程度増加しています。また、近年は東南アジア圏の割合が大きくなっています。

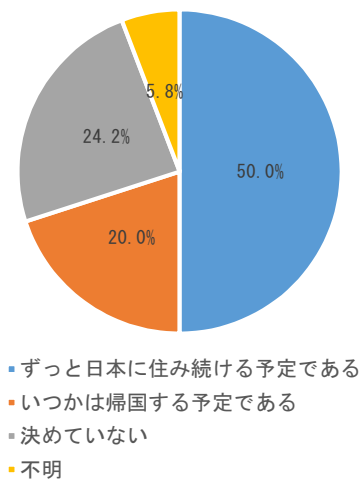
○外国人市民の半数は今後も住み続ける意向がある中、働く上での言葉・習慣の問題や待遇への不満、将来への不安を解消していく必要があります。

豊橋市：外国人市民の推移

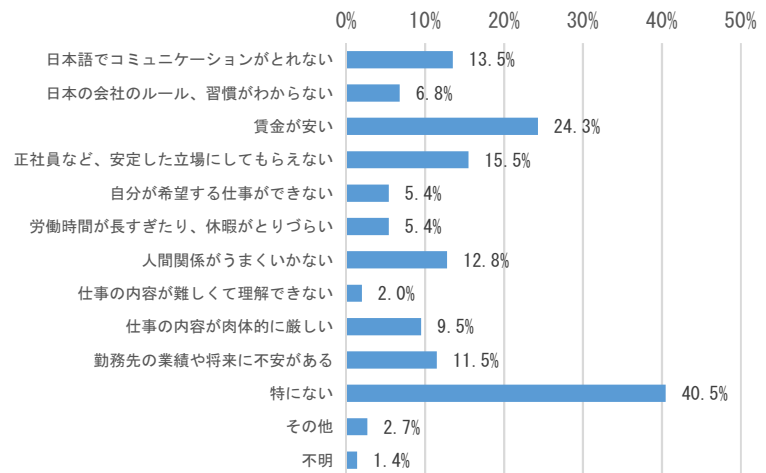


出典：国勢調査

豊橋市：今後の予定



豊橋市：現在の仕事で困っていること



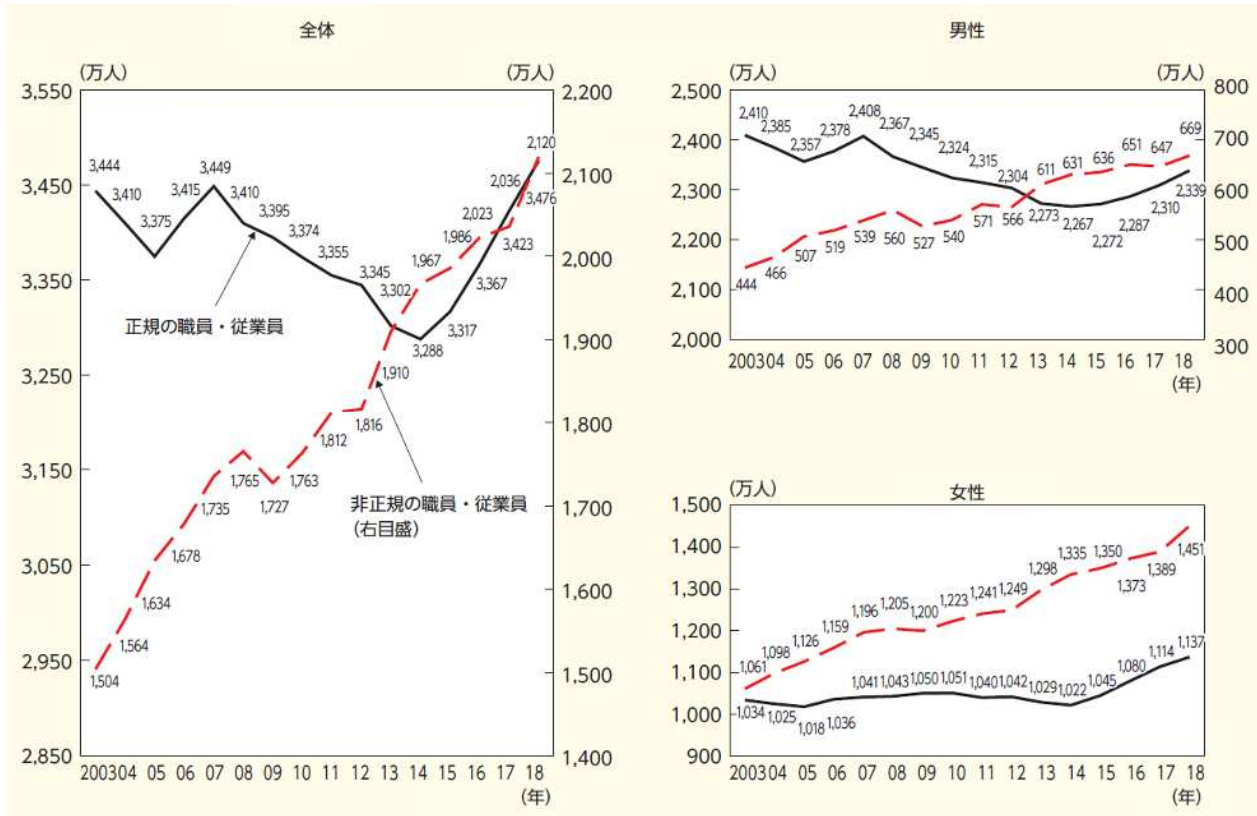
出典：平成 28 年度外国人県民アンケート調査報告書-豊橋市-（愛知県）

➤ 非正規雇用が増えています。

○日本全体で非正規雇用が増加しています。

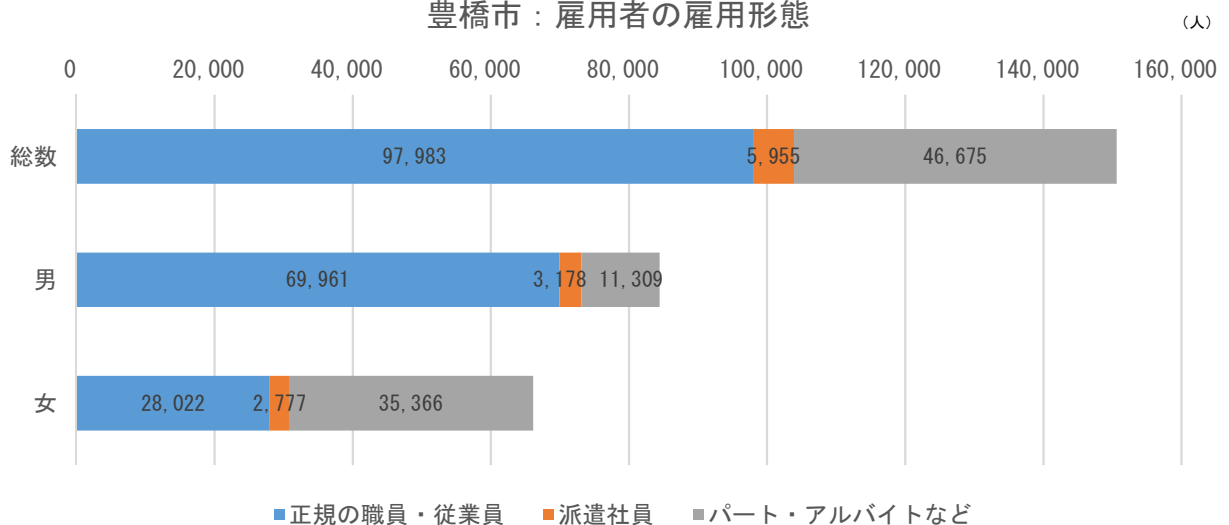
○本市の非正規雇用労働者は約5万人で雇用労働者の35%を占めている中、自らの希望で非正規で働いているわけではない方に対する支援が必要です。

国：雇用形態別にみた雇用者数の推移



出典：令和元年版 労働経済の分析（厚生労働省）

豊橋市：雇用者の雇用形態

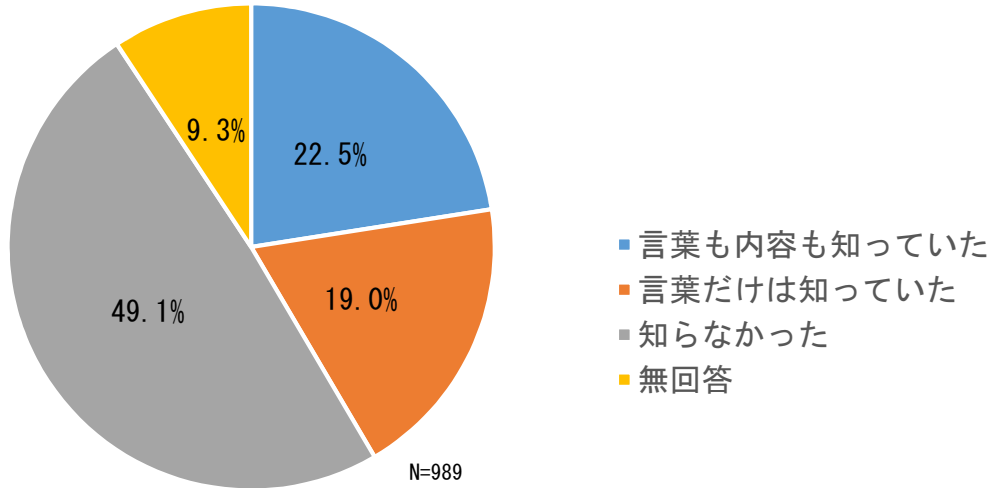


出典：国勢調査（H27）

➤ LGBT に対する市民理解が不足しています。

○LGBT（性的少数者）について言葉も内容も知っている市民は約2割にとどまり、約半数の市民は「LGBT」という言葉そのものも知らないなど、市民理解が不足しています。

豊橋市：LGBT（性的少数者）の市民理解



出典：男女共同参画に関する市民意識調査（H28）

②現況と課題について、所属団体での活動経験や日頃の生活で感じていることを踏まえ、付け加えた方がよい視点や認識に相違がある点などがありましたら教えてください

③誰もが活躍する社会づくりに関する“本市の主な取組み”

○お互いさまのまちづくりの推進

住み慣れた地域でいつまでも暮らすことができるように、高齢者が気軽に集うことができる「まちの居場所」の運営や高齢者の日常生活を支援する「助け合い活動」など、地域住民が主体となった支え合い活動を通じた、お互いさまのまちづくりを進めます。



まちの居場所づくり活動の様子

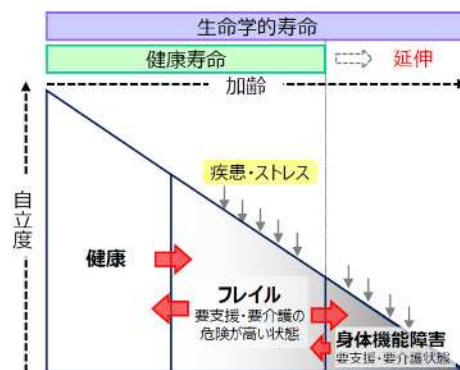
○高齢者の安全な移動手段の確保

70歳以上の運転免許自主返納者に対して交通助成券を交付するとともに、電動アシスト自転車の購入費用を助成します。また、65歳以上のドライバーに対して、アクセルやブレーキの踏み間違い事故を防止する後付け装置の設置費用を助成するなど、高齢者の活動を支える安全な移動を支援します。



○生涯の活躍を支える健康づくり

人生100年時代の中、健康寿命を最大限伸ばして生涯を元気で活躍し続けることができるように、フレイル（加齢により心身が老い衰えた状態）予防を校区のイベント会場や地区体育館など身近で参加しやすい場所で行います。



○若者の活躍の機会と場の創出

豊橋の未来を創る政策を、若者が自分たちで考え、議論し、提案する「豊橋わかば議会」を開催します。また、大学生や高校生のアイデアをカタチにできる「ガクラボ」を南部窓口センターの2階にオープンするなど、これからの豊橋を担う若者の活躍を応援します。



○女性の就職とキャリアアップの支援

女性の就職やキャリアアップのため、就職に役立つ国家資格取得時の費用を助成するほか、再就職を目指す女性を対象とした就職相談やセミナーを実施します。また、異業種交流を通じて働く女性のネットワークづくりや女性活躍を実践する企業を増やす「とよはし女性応援プロジェクト」を推進します。



とよはし女性応援プロジェクト 研修会の様子

○家庭と仕事が両立できる環境づくり

働く子育て世帯を応援するため、令和2年度から児童クラブを新たに7クラブ増設するとともに、移転等により既存の4クラブの定員を増やします。加えて、利用者ニーズの高い夏休み期間の利用に限定した児童クラブを市内5か所で開設します。また、育児不安や育児疲れで休息を必要とする家庭の負担を軽減するため、子どもの一時的な預かりを行うとともに、子どものインフルエンザの予防接種費用の助成や入院医療費の無償化を18歳まで行うなど、経済的負担を軽減します。

○障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用促進

障害のある人がその特性に応じたコミュニケーション手段を利用できるように、市役所窓口での多様なコミュニケーション手段の提供や手話通訳者・要約筆記者の派遣を行います。また、平成30年4月から施行した「豊橋市障害者のコミュニケーション手段の利用促進に関する条例」に基づき、市民や事業者の理解・協力を促します。



○外国人市民が安心して住み続けるための支援

来日間もない外国人児童の基本的な生活習慣や日本語指導を集中的に行う初期支援コース「きぼう」を岩西小学校に令和2年度から開設します。また、出産から子どもの教育、就職、介護など各ライフステージで必要となる知識を身につける外国人向けのライフプランセミナーの開催やメンタルヘルス相談を行うなど、安心して住み続けることができるための支援を行います。



ライフプランセミナーのイメージ

○LGBT 等性的少数者に対する理解促進と相談支援

LGBT 等性的少数者に対する市民の理解を深めるため、啓発冊子を配布するとともに、専門家による面接相談を実施します。

④誰もが活躍する社会づくりに向けた“今後の方針と具体的方策”

<方針>

○活躍したい人の希望が叶うまちづくり

一人ひとりが望む活躍に応じたスキルの習得や機会の創出を支援するとともに、周囲がその活躍に対して理解し、応援できる社会を形成する。

○自発的に活躍したくなるまちづくり

活躍に対する社会的な評価や正当な対価を得ることができる社会を形成し、自発的な活躍を促す。また、活躍のハードルを下げ、一人でも多くの方に、できることを見つけてもらい行動変容を促す。

○活躍を支え、生み出すまちづくり

活躍するために必要な環境をハード面、ソフト面の両面から整えるとともに、先端技術を活用することにより、活躍を支えるだけでなく、新たな活躍の場や機会の選択を可能とする。

○再活躍を可能とするまちづくり

個人あるいは周囲の努力や注意ではどうすることもできない事態や失敗に対するリスク分担を社会全体で行い、再チャレンジを可能とする風土やシステムを作り上げる。

<具体的方策>

○活躍を可能とする基盤整備

ユニバーサルデザインのまちづくりや情報通信技術の積極的な活用による移動やコミュニケーションのバリアフリー（誰もが活躍できる環境の整備）

取組例	バリアフリー化のさらなる推進 公共交通や送迎サービスの充実 ICTを活用したコミュニケーションの補完（多言語、手話、音声通訳等） 等
-----	--

○活躍しやすい環境の創出

キャリアアップやスキルアップの促進、活躍に対する周囲の理解促進と協力、活躍を支える環境の整備（一人ひとりが望む活躍の実現）

取組例	必要な資格や語学をはじめとしたスキルや知識の習得支援 生涯の活躍を支える健康づくりとリカレント教育（学び直し）の推進 女性が活躍しやすい環境づくり 正しい知識の普及（可能と不可能の区別、無意識による差別の意識化）と相互理解促進 柔軟な働き方の導入 等
-----	---

○活躍の場と役割の確保・創出

一人ひとりに応じた居場所づくりと生きがいづくり、高齢者や障害者の社会参加促進、不安定な雇用状況や長期の無業状況にある人が希望を持って働くことへの支援

取組例	サークル活動などの情報提供 能動的な声かけなどによる社会参加のきっかけづくり 高齢者や障害者への就労支援 就職氷河期世代への就労支援 等
-----	---

○活躍を応援する社会の形成

社会貢献活動や挑戦などに対する社会的評価の向上、活躍している人やこれから活躍する人のモチベーションを高める社会の形成、活躍を妨げるリスクを社会全体で分担しチャレンジや再チャレンジができる社会の形成

取組例	社会貢献活動に対する尊敬や感謝意識の醸成 適正な対価の付与（有償ボランティアなど） 共助・公助のセーフティネット構築 セカンドチャンスの創出 家庭と仕事の両立支援 等
-----	---

④方針と具体的な方策について、付け加えた方が良い視点や認識に相違がある点などを教えてください。また、具体的な取組みのアイデアがありましたらご提案ください